

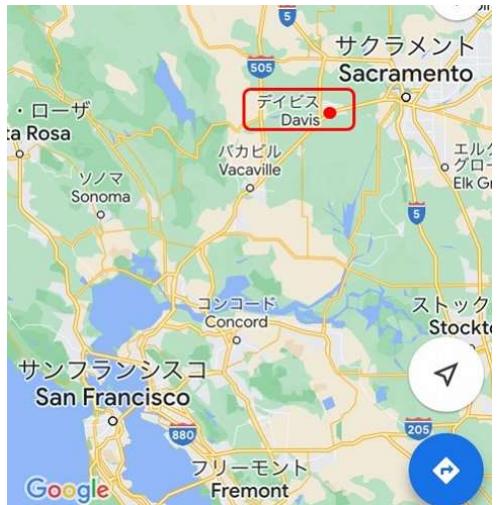
ベビーシッター奮闘記 in DAVIS

菅澤 理恵子

私はこの夏、6月23日から7月31日まで、カリフォルニア州の（ヨロ群にある）Davisにいました。

昨年7月、1歳の娘を連れて夫の赴任先 Davis へ渡った長女が、現地で二人目の子を出産したので、ベビーシッター目的で行ってきました。昨年暮れに行くことが決まった私は、年が明けてから私の娘たちの勧めもあって、4ヶ月間のベビーシッター講座を受講しました。（果たして役に立ったのかなあ？）

そこで今回は、Davis 滞在でのいろんな発見や心に残ったことを記したいと思います。



ラッキーなことにアメリカ合衆国は、新型コロナウィルス感染拡大防止に伴う水際対策（入国制限）を2023年5月11日を以て撤廃していました。そしてまた、海外渡航慣れしている娘たちの力を借り、ネットで航空券の取得やESTAの申請取得もできました。

羽田空港では、自動チェックイン機を使ってのチェックインや顔認証登録など（顔認証しておくと、列に並ばなくてもスムーズに搭乗ゲートをくぐれます）、久しぶりの空港での手続きをなんとか乗り越えました。また、搭乗前の抜き打ちチェックには驚きましたが、無事通過できました。やれやれ！
出発の掲示板に、行先が「サンフランシスコ 旧金山」と標記されているのが気になって、調べてみ

ました。すると、カリフォルニア・ゴールドラッシュの時、中国人が大挙してサンフランシスコ港に渡ってきたことに由来する中国語表記でした。（因みにアメリカに続いてオーストラリアでも金が発見されたので、メルボルンの中国語標記は「新金山」のようです。）サンフランシスコは、今は大都会ですが、ゴールドラッシュ前の1846年には人口が200人ほどの小さな開拓地だったとのことで驚いています。

サンフランシスコ国際空港着は、朝の10時頃（現地時間）なので、（娘たちからも繰り返し言っていたので）到着後の時差ボケ防止のため機内で眠りましたが、ダメでした。（機内食カットしてたら眠れたかなあ？）



Davis 最寄りのサンフランシスコ国際空港へは、マー君（長女の夫）が迎えにきてくださいました。入国審査を終えスーツケースを見つけた私がマー君に会うまでに、彼は「嵐」の相葉雅紀君がスタッフ数人と話しているのに遭遇したこと。私と同じ便だったようです。（サンフランシスコ・ロケかしら？）



2時間後に、マー君の運転で娘と孫達が待つ Davis のマンションに到着しました。サンフランシスコからの道中、車内から見える山々が、日本の山とは全く異なり、緑の木々は少なく、草が枯れて山肌が枯れ草色になって見えることに驚きました。（気温が高くて乾燥しているからでしょうね。）

リオちゃん（私の初孫）とは1年ぶりの再会でした。6月28日に（私がDavisに着いてから）2歳のお誕生日を迎えました。リオちゃんは、まだママに甘えていたいのに、いつもママに抱っこされているケイくん（弟）がいて、時々寂し

そうな目をします。長女は、ケイくんにかかりきりで寝不足です。私の役目はリオちゃんのお世話・・・『絵本の読み聞かせ』や『ぬりえドリルやゲーム』につきあつたり、『歌と一緒に歌ってあげる』こと、また『近くの公園へ連れて行って過ごす』こと、そして『リオちゃんが残さず食べてくれる食事作り』でした。

長女はリオちゃんの1日のスケジュールをキッチリ決めていました。7時半に朝食、10~11時頃は公園、12時に昼食、食べ終えたら昼寝、目覚めたら公園、18時に夕食。食べ終えたら、ケイくん→リオちゃんの順にパパとお風呂。そして歯磨きをさせてから寝かせつけます。私は機内で充分眠れなかっただけ、（年のせいかも）時差ボケが取れるまでに1週間近く、ぼんやりしたり睡魔に襲われたりとたいへんでした。

私が滞在中のDavisは、午前中と夕方のある時間帯は涼しいけれど、日中の気温が40度を超えた。マンション内は建物全体が廊下も含めて全館冷房になっていて快適でしたが、外へ出ると肌を刺すような暑さです。紫外線も日本の2倍で、紫外線対策の服装が必須でした。雲一つない青空が広がっていて、私がDavis滞在中、雨は一度も降りませんでした。でも、汗が全く出なかったので、「湿度が低い」ということはこんなにも身体に及ぼす影響が違うのだと理解しました。

（帰国後は、猛暑が続き、汗だく の日々）

近くの公園は、リオちゃんが歩いて5分ほどの距離にありました。リオちゃんは公園に行くのが大好きでした。いろんな遊具が（音声や音の出る遊具・楽器）置いてあり、楽しめました。同じ年のメキシコ人の少年ともお友達になり、一緒に遊ぶ日もありました。

少し離れた場所の公園にも行きましたが、どの公園にも（街路樹にも）、角の取れたウッドチップが敷き詰められていて、リオちゃんは、ウッドチップを並べて遊ぶのが好きでした。日本も、ウッドチップをもっと利用すればいいのにと思います。
公園で遊んでいる現地の幼児たちは、とてもフレンドリーで、リオちゃんと目があつたり意思疎通できた子たちは、よく“High five！”と言って、手を挙げて近づいてきました。
ハイタッチですね。

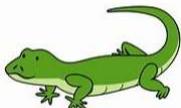


マンションを出ると、公園に着くまで、美しい花が（名前はわからないのですが）いくつも咲いていて、私の目を和ませてくれました。

「こんなに暑い日が続いている、そして乾燥しているのに？」と不思議に思ってましたが、長女から「おかあさんが見てない時間帯に、ちゃんと水やりされているよ」と教えてもらい、納得しました。



それから、公園へ行く途中で、トカゲや野生のリスをよく見かけました。ある時、アスファルトの上でミニチュアワニのようなトカゲが、腕立て伏せを数回していたのを見つけ、目が釘付けになっていました。見たのは初めての体験で、腕立て伏せをする爬虫類だったとは全く知りませんでした。



リオちゃん、行きは歩きですが、公園で遊んだ後は疲れてしまって、帰りはほとんど抱っこでした。でも、マンション前に着いてオートロックを開ける時はリオちゃんの出番で（やりたがって）、上手に暗証番号を押すので関心しました。玄関ドアから入ったら、二人とも 手洗い・うがい、そして全て着替えました。



7月3日（月）のことでした、マー君が午後イチに帰宅されました。なんでも、同僚の家で午後からプールパーティを開いてバーベキューをするのに誘われたそうですが、辞退して帰ってきたとのことでした。私はびっくりしました。プールパーティをするために仕事を切り上げるということは、日本ではありえない事です。仲間のチームワーク作りのためとすれば、日本だと休日を利用するでしょうね。

そして翌日、7月4日（火）は、アメリカ独立記念日（祝日）でした。

Davis のセントラルパークで「こどもパレード」が 10 時からあり、リオちゃんが参加しました。マー君が買ってきた、アメリカンカラーのパレード用ヘアーバンドを頭に付け、アメリカの国旗を手に持ての行進でした。パレード参加前、リオちゃんは受付のおばさんから、腕にステッカーシートを張り付けてもらいました。

（このシートは数日間消えず、腕に残っていました。）



パレードが始まりましたが、パレードの先頭を行くのは（パトカーではなく）消防車だったので、びっくりしました。「活動はボランティア消防団が担っている」と、あとで長女が教えてくれました。（アメリカでは、ボランティアの消防団がコミュニティを守って活動しているのだそうです。）



パレードに参加の後は、公園でしばらくリオちゃんと遊んでから帰宅しました。



独立記念日は、アメリカで最も壮大な夏の祝賀イベントなので、夜には、日没後の 21 時過ぎから国内あちこちで花火が打ち上げられます。私達は、最寄りのコミュニティ・パークで打ち上げられていた花火を、外へ出て（遠くから）眺めてきました。



私が食事作りを担当していて気づいた、日本との相違点について触れたいと思います。

Nugget（最寄りのマーケット）は、マンションから歩いて15分ほどのところにありました。



公園とは反対方向です。大通りへ出るので、横断歩道を渡りますが、そこを渡る時、日本と違い手前でボタンを押して「進む」の合図が出てから渡ります。また、渡る制限時間（秒数）が表示されるので、その刻々と変わる秒数がゼロになるまでに、渡り切らねばなりません。



なお、信号機は歩行者用と自転車用が分かれているので、要注意です。



Nugget の外装には彫刻のあるおしゃれな装飾がされていて、とても気に入りました。クロアチア旅行した時（2012年）に、首都ザグレブで見た壁面装飾を思い出しました。店内に入ると、袋詰めされない野菜が綺麗に積み重ねて配置されていて、見ていて楽しくなりました。

日本では見たことのない形の桃がありました。ドーナツ・ピーチ！
買ってきて味わいましたが、ジューシーで甘くて美味しかったです。



ところで値札の見方ですが、このドーナツ・ピーチの値段は 6.99/lb。
lb は、libra の略で、1 ポンド（約 0.454 kg）あたり 6.99 ドルです。
(ラテン語の『libra pondo』(天秤で重さを量る際のおもりの意) が語源だそうです。) 野菜や果物を、必要な数（量）だけ買うことができるのです。シリアルやナッツ、チョコ、レーズン、各種スーパーフード類は、自分で必要量を袋に入れ、はかりで重さを確認することもできました。



幼いころに近所にあった駄菓子屋さんを思い出していました。

実物を見たのも初めてで、食べるのも初めてだった**ドラゴン・フルーツ**。マー君が買ってきてくださったので、(切り方を調べて)切って食べましたが、さっぱりと美味しかったです。キーウィに似た味でした。



乾燥オクラなるものも、初めて見ました。
リオちゃんがお昼寝から目覚めた時のおやつ（イチゴやブルーベリー入りヨーグルトと乾燥オクラ）でした。
どうやったら作れるのだろうと、Davis 滞在中はいつもその疑問が頭の中にありました。
いつか作れたらいいなあと思っています。



平日は、仕事帰りにマー君が買い物をしてきてくださるのですが、常に**ビーツ**が冷蔵庫にありました。リオちゃんが大好きなので、食事の一品として、(調理せず) フルーツ感覚でお皿に盛りつけて食べました。アメリカでは、ビーツが簡単に手に入ることに驚いています。
数年前に、ロシア人が経営する富山のロシア料理店でボルシチを食べた時、「日本ではビーツが手に入り難いので、ボルシチの色と味を出すのに苦労している。」とおっしゃったことが、記憶に残っています。



Nugget で、買い物を終えてから食べた『アサイーボウル』の美味しかったことを思い出します。長女の好物でしたが、私も一度食べてからというもの、『アサイーボウル』食べたさに Nugget へ買い物に行きたいと思うようになっていました。最初、小豆入りかき氷かと思いましたが、アサイーのスムージーでした。そのスムージーの上に、グラノーラ、バナナ、イチゴ、ブルーベリー等をたっぷり乗せて、トップにココナッツをまぶしたり、チョコ&蜂蜜をかけたりして食べます。ちなみに、1カップの値段は、\$9.95 でした。



アメリカの物価は、日本と比較すると高いです。
3倍くらいでしょうか。
こんなコーナーも見つけました。
缶コーヒー1本が \$3.49 でした。





マー君が買ってきてくださるクロワッサンは、巨大でした。日本で売られているクロワッサンと親子ほど違いました。長さ 18~20 cm ほどあったかも。そしてまた、1パック 12 個入りのものをいつも買ってこられました。朝食に、オーブンで温めていただきましたが、中はしっとり外はパリパリで、そしてとても美味しいくて感動しました。



マー君の希望で、ある朝、クロワッサン・サンドにしてみたことがあります。(大人用) 気に入られたようで、それからはクロワッサンに切り目を入れておけば、お皿から好みの具を選んで挟んで食べておられました。(朝の食事時間節約のためかも)



それから、卵のことで驚いたのですが、アメリカで売られている卵の生食はできません。サルモネラ菌が付着しているので、しっかり火を通す必要があります。通常、1ダース(12個)パック箱入りで売られていて、箱を開けて卵の殻をさわったら、次の作業に入る前に必ず手を消毒するよう長女から徹底されました。卵の内部も卵殻表面も、サルモネラ菌に汚染されている可能性を考えているようでした。日本では卵かけご飯をはじめ、すき焼きや月見うどんなど、生卵は一般的に食べられていますので、生産の段階から衛生管理が徹底されています。ありがたい事だと改めて思います。

鶏肉やその他の肉に関しても(長女はオーガニック商品にこだわっていましたが)、扱う時は要注意でした。特に鶏肉は、薄手の手袋をはめてパックから取り出し、鍋に入れたら鶏肉の入っていたパックは、手袋と一緒にビニール袋の中に入れて捨てました。そして鶏肉にはしっかり火を通して調理する必要がありました。また、作り終えたら、鶏肉に触れた調理器具や手はきれいに洗わねばなりません。鶏肉はサルモネラ菌に汚染されているし、カンピロバクターによる食中毒にも注意しているからです。

また、料理で水や牛乳を使う時、1本が重くて苦労しました。

1本1ガロンのボトルの品を購入していたからです。

1ガロンは3.78リットルです。赤ちゃんより重い

(牛乳大好きなりオちゃんは、
朝起きたら、いつも食事前に
カップ1杯の牛乳を飲みます。)



2歳になりたてのリオちゃんは、何でも自分でやりたがり、いろんなことに興味を示しました。洗濯物を畳んでいると手伝ってくれました。最初は私のすることをじっと見ていたのですが、次第に真似て（小さいタオルを）畳んだり運んだりと、お手伝いをするようになったのです。



リオちゃんが一人遊びしている様子で、とても興味深かったものがありました。ケイくんのオムツを取り出してきたリオちゃんが、片時も離さない大好きなワンちゃんに、語りかけながらオムツをはかせていたのです。いつもママやパパが、ケイくんにしているのを見ていて覚えたのでしょうか。もっともリオちゃんもまだオムツをしているので、自分にされるのと同じことを弟にしてると思って眺めていたのでしょう。こんなに小さいのに、しっかり見ているのだなあと感心しました。



それから、嬉しい事がありました。私はリオちゃんの好き嫌いを無くすことを目的に、毎日思考錯誤しながら食事作りをしていました。私が来た当初は、専らスプーンとフォークでの食事だったのですが、2歳の誕生日のお祝いに届いたプレゼントの中に、リングに指を入れる『ベビー用箸』が入っていたことで、箸を使い始めました。そしてついに、その箸で食べ
ことができるようになったのです。

みんなで褒めてあげました。
リオちゃん、大喜びでした。



リオちゃんが『おままごとキッチン』
を持っているのにも驚きました。
長女が言うには、「ママ友のツテでいただいた」とのこと。
こんな本格的な、幼児用キッチンがあるんですね！
リオちゃんは気が向くと、自己流のお料理教室を開いて、
大好きなワンちゃん（ぬいぐるみ）に食べさせていました。

コミュニティ・パークの敷地内に図書館（Davis Branch Library）があります。ある水曜日の午前中、9時から始まるS先生の（幼児向け）授業に、リオちゃんを参加させようと散歩がてら出かけました（片道25分程度）。10時からはオンライン授業もされていて、いつもはオンラインで受講していましたが、今日は「出かけてみよう」ということになりました。ケイくんも寝てくれたのでベビーカーに乗せて連れ出しました。

図書館前の広場に到着すると、授業を受けようと大勢の子供たちが、保護者の方と集まっておられました。S先生のお話や、歌に合わせてのダンスや、いろいろなゲーム、楽しい集いでした。



S先生の授業終了後は図書館に入り、リオちゃんに読んであげたい本を選んで借りてきました。



そして、いよいよ、7月22日（土）になりました。

朝10時頃サンフランシスコ国際空港に到着する夫を、リオちゃんも一緒にマー君の運転で迎えに行きました。リオちゃんの相手をしながら車窓からの風景を見ていたのですが、サンフランシスコの町に入ってから見えてきた、丘の上に段々に建てられたメルヘンチックなマンションに、一時魅了されました。



空港で夫と合流すると、マー君は「**フィッシャーマンズ・ワーフ**」へ連れて行ってくださいました。



遠くにアルカトラズ島(1934~63まで連邦刑務所がかった島)

アルカポネも収監されていた**脱獄不可能な監獄**

フィッシャーマンズ・ワーフ (Fisherman's Wharf : 漁師の波止場という意味) はイタリア人漁師の船着場で、ゴールドラッシュで発展した港町です。今はピア39(ピアとは桟橋)が一番にぎやかで、レストランやショップ、水族館、アトラクションが詰まった観光スポットになっています。

私は高校時代、2年生から3年生になる春休みに、母が参加した「アメリカ西海岸教員ツア」に誘われて同行した時、ここフィッシャーマンズ・ワーフで、蟹や海老のコース料理を食べた記憶があります。しかし49年という時間の経過で、当時の面影は消え、あたりはすっかり様変わりしていました。

ピア 39 の回転木馬の前にある野外ステージでは、マジシャンが公開マジックショー（無料）をやっていたので、観客として一緒に楽しんできました。



この名物、BOUDIN（ボーディン）のクラムチャウダーを食べました。サワードゥ・ブレッドをくり抜いて容器にしたクラムチャウダーです。酸味のあるパンなので濃厚でクリーミーなチャウダーと相性がぴったりでした。サワードゥ・ブレッドは噛み応えがあり、大きくてどっしりしていて、そこに具だくさんのクラムチャウダーが詰まっていて、夫も私も、これ1個だけでお腹がいっぱいになりました。でも、周囲の若者たちのトレーには、さらに、サンドイッチやフライドポテトも乗っていたので、驚きました。



マー君は帰り道、ゴールデンゲートブリッジを渡ってくださったので、車内から眺めてました。夫は、日本からのお土産に、長女の希望でバームクーヘン（Ferver）を買って持ってきてくれました。どうやらアメリカでは、バームクーヘンは売られてないようです。ドイツのお菓子だからでしょうか？アメリカで手に入らない品に、長女は大喜びでした。そして、さっそく皆でいただきました。



夫と私が揃ってから、マー君は休みの日を利用して私達を（近場）観光に連れて行ってくださいました。このあとは、マー君が連れて行ってくださった場所での事を書こうと思います。夫は（私と同様に）到着後の時差ボケと戦いながら、キツイ1週間をがんばっていました。

まず、マー君の運転で道路を走っていて驚いたことがありました。

大通りへ出て右折する時に、赤信号なのに右折されたのです。もちろん安全であることを確認した上での右折でした。驚いたので尋ねると「日本とは違うルールなんですよ」とのこと。車は右側通行だから（交差点では右側から車が来ないから）右折できるのでしょうか？



UC Davis (カリフォルニア大学 Davis 校) のキャンパスを散策してきました。

Davis 校は、農業や生物化学に力を入れた（全米でも有名な）大学です。

最初に驚いたことは、森の中のキャンパスみたいで、そして野生のリスとターキーがいたことです。キャンパスの広さが、東京ディズニーリゾートの約 10 倍もあるとのことで、学生たちは皆、自転車で移動していました。でも夏休み中なので見かける学生はほんの僅か、キャンパスはリスとターキーの天国のようでした。また、リスもターキーも人慣れしていて、近づいても逃げませんでした。リスなんかは、むしろ近寄ってきました。（もしかしたら、食べ物をもらえると思ったのかな？）





かつて Davis 校の美術の教授だった彫刻家の Egghead (はげ頭) の芸術作品が、キャンパス内あちこちにあって、一見不気味ですがユーモアもあり、いろいろ考えさせられました。（図書館前の Egghead は読書をしながら居眠りしているように思えました。）



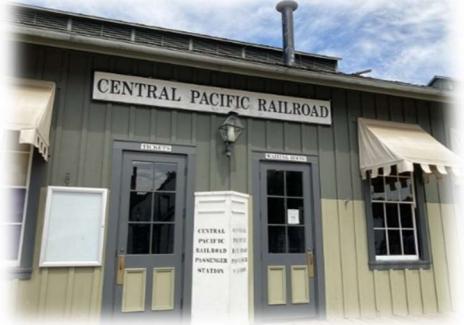
オールドサクラメントとカリフォルニア州立鉄道博物館を見てきました。カリフォルニア州の州都であるサクラメント市は1848年頃始まったゴールドラッシュによって急激に発展してきた街で、160年余りの歴史があります。（州議事堂の建設は1860～74年。）オールドサクラメントには、ゴールドラッシュ時代（1850～80年）に建てられた古い建物が大切に保存されています。



オールドサクラメントを歩いていると、なんだか（小さい頃、父が大好きだった）西部劇映画の世界へタイムスリップしたような感覚になる瞬間がありました。

リオちゃんはキャンディショップで、よりどりみどりの大量のキャンディの中から、美味しいそうなキャンディを買ってもらって大喜びでした。





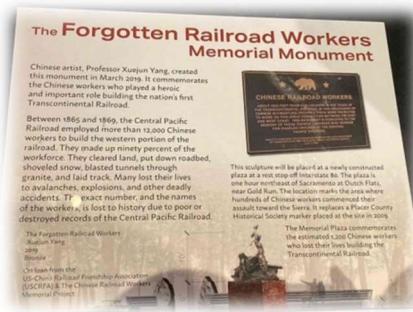
このカリフォルニア州立鉄道博物館には、当時の姿に修復された機関車が21台ほか、鉄道が開通するまでの苦難の様子が展示されていて、西部開拓時代の様子がとてもよくわかりました。食堂車の中に展示されていた食器（各機関車ごとに使用されたコダワリの食器）を眺めていると、当時の人々はきっと列車での旅行が娯楽のひとつだったろうと思いました。





ここでは、アメリカの鉄道開発の歴史と、中国から移民してきた人々の鉄道建設における血と涙の歴史も学べます。

列車のおもちゃの模型もあり、大人も子供も楽しめました。



7月29日(土)、皆でセントラルパークの Farmer's Market へ出かけました。朝市は水曜日の午後と土曜日の午前に開催されていて、マー君は車で2回往復してくださいました。Davisは、周辺が農地(穀倉地帯)なので、地産地消の場となってる Farmer's Market はすごい人出でした。

そして、ただ買い物にくるだけでなく、人々が集う広場のようにも感じました。(朝市開催に合わせて、近くで野外コンサートやイベントも行われているからでしょうか。そういえば、野外ピアノが1台あり、プロ並みのおじいさんが弾いておられました。)



Farmer's Market 会場に隣接した公園で、ようやく、親子での写真撮影に成功しました♡。



私は、Farmer's Market の中にあったパンコーナーで、食べてみたいと思ったパンを見つけて買っていたので、さっそく味見もしました。深い味わいで噛み応えがあり、美味しかったです。



ところで私は、以前7月8日(土)にもマー君とここへ来ています。

その時は、Farmer's Market で買い物したあと、リオちゃんを公園で遊ばせて帰宅しました。

その時のことです、マーケットの中に人だかりのテントがあり、人々は議論しあったり笑いあったりしていました。それを見てマー君が、話して（教えて）くれたことがありました。

確かに、人だかりの隙間から見えるテントの奥の壁に、「FLAT EARTH」と掲示していました。

マー君の話では、「アメリカには『地球は平たい』と信じている人々がいて、その信じる人達と反対派の人達が集まって、あのテントの周りではいつも議論しあっている。いつ通っても人だかりになっている」とのこと。『地球平面説』を信じている人々がいる、、私には、信じられないことでした。

その日の夜、マー君がメキシカン料理を作ってくれました。私が作ったことのない料理でした。そしてまた、マー君が買ってきたトルティーヤは、“とうもろこし 100%”の生地でした。それは初めて食べました。また、ワカモレも初めてでした。材料はアボガドがメインですが、美味しかった、そしてアボガドが好きになりました。

若者の（男の）料理は、いいですね！



マー君から、「乗せる量が多すぎだよ」と言われたトルティーヤ

そして、いよいよ今回の滞在で最後の観光場所となった、**カリフォルニア農業博物館**。



ここには、アメリカ国内でも興味深いトラクターや骨董品のコレクションが約 120 台も収蔵されていて圧倒されました。

ゴールドラッシュ時代から使用されてきた巨大なトラクターなどを展示する巨大な倉庫（約 8400 m²）で、古い農具も展示されていて、そしてキッズゾーンもあり楽しめました。

カリフォルニアの農業機械は、馬が引く機械に始まり、蒸気で動く機械へ、そして燃料で動く機械へと進化してきました。

ギャラリーや回廊には、使用されていた年代順に、収穫機・トラクター・コンバイン・トラックや当時の様子が解る写真など、たくさん展示されていました。ボランティアのブライアンさんの説明もありました。またキッズゾーンでリオちゃんは、ミニチュアのキャタピラーや トラクターなどに、自由に試乗体験して楽しんでいました。





翌日、私は夫と、マー君にサンフランシスコ国際空港へ送ってもらって、帰国の途につきました。

今回の私の渡米は、5月23日に二人目の孫が産まれたことで、リオちゃんの世話のため（マー君のお母さんに引き継いで）実現したことでした。ベビーシッターだけで帰国するつもりでしたが、都合をつけて夫が来てくれたことで、Davis近場の観光ができ、そしてカリフォルニアの歴史（ゴールドラッシュとの深いつながり）を学ぶ機会にもなって、本当に有意義だったと思っています。

おまけ

ところで、ケイくんの100日祝い（お食い初め）のお祝いをしたと、長女から写真が届きました。私がDavisに着いた時は、産まれてやっと1ヶ月だったというのに、もう100日が経ったのです。そしてまた、アメリカで、長女なりのお食い初め膳を整えたことに驚き、感動しています。お食い初めの器やケイくんの袴は、長女がネット（楽天）で注文して、届いたのをアメリカへ送りました。食材は、マー君がDavisにある日系スーパーで買ってきてくださったそうです。でも、丸ごとの鯛は売られてなかっただので、大きな切り身で代用しています。



食べるのはリオちゃん